

令和3年度 環境で地方を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果報告会 発表資料

### 活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：(公財)うんなんコミュニティ財団

活動地域：島根県雲南市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

誰もが参加できる地域資源循環のまちづくり

# 活動団体紹介

## 島根県雲南市

- ・ 中山間地域
- ・ 人口：36,329人
- ・ 高齢化率：40.07%  
(2022年1月末現在)
- ・ 小規模多機能自治を進める



雲南市HPより



RESASより

## うなんんコミュニティ財団

- ・ 642名のご寄付300万円をもとに2020年4月設立、9月に公益財団法人化
- ・ 目的
  - 地域資源（人・もの・資金・情報等）循環の基盤となる
  - それにより誰もが地域課題や価値創造に関わることができ、公益を担い合い持続可能な地域づくりに寄与する



食の社で「地域まるごと子育て“縁”をはじめたい！  
コミュニティナースカンパニー株式会社  
寄付者：138名  
達成額：315万5千円



映画「福島は語る」を鑑賞してみんなで島根の原発について話したい！  
あげ！そげ？はっけんくみ  
寄付者：24名  
達成額：12万7千円



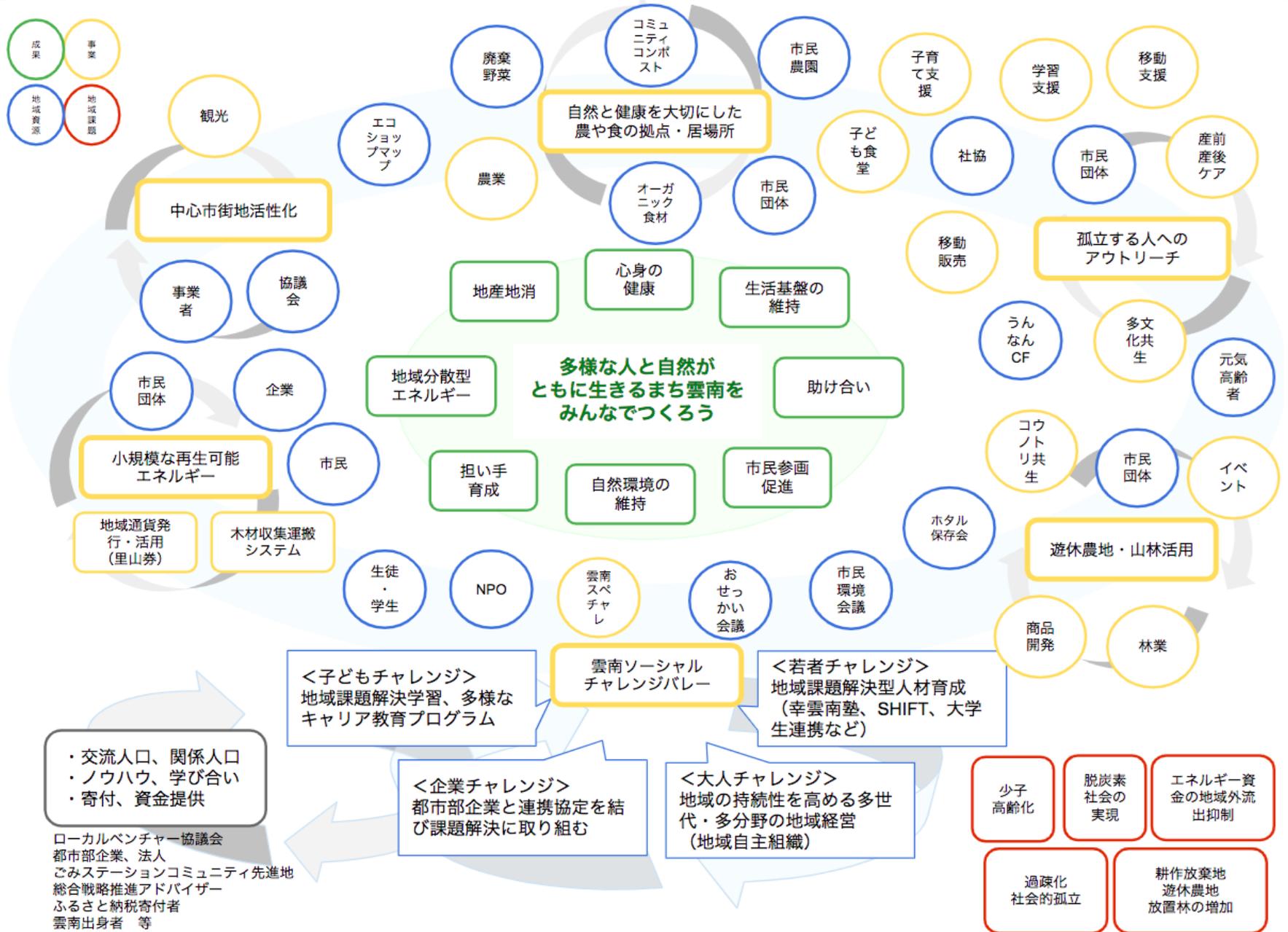
心の病気(=生きにくさ)を感じている方の「心の安全基地」を作りたい！  
心のベースキャンプ  
寄付者：57名  
達成額：30万円1千円



「雲南ツアー」を開催したい！  
五感で感じる雲南ツアー  
2022実行委員会  
寄付者：22名  
達成額：20万1千円



# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



# 地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

## うなんローカリストプログラムの実施

日々の暮らしと持続可能な未来を接続する人材として成長する対話型の人材育成プログラム

- ・ 第0回目 ローカルマニフェスト対話会
- ・ 第1回目 学びとテーマの発表
- ・ 参加者向けメンタリングセッション
- ・ 第2回目 アイデアの共有とブラッシュアップ
- ・ おせっかい会議での発表・意見交換
- ・ 第3回目 最終対話会



## 地域自主組織と連携した環境教育の実施

- ・ 第1回目 ゴミゼロゲーム
- ・ 第2回目 コンポスト作成・色々なごみを投入
- ・ 第3回目 生ごみ結果と今後



## コンポスト勉強会・実践者サポート・生ごみの記録



## 市民環境会議の開催（市との共催）

- ・ 方針や目標の共有
- ・ 現状の把握
- ・ できることやこうなったら良いと思うこと等意見交換



## イベント出展



## 情報集約・交換のコミュニティづくり



# 取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

## (1) 市と取り組む体制ができた

情報共有や場づくりの実施

- ・ 行政との情報交換：6回

※市民環境会議を経て計画していたカーボンニュートラルシンポジウムは新型コロナウイルスの影響で中止



## (1) 地域自主組織との連携

初めて連携して開催。夏休み企画として地域の小学生を対象とした環境教育、キエーロコンポストを活用した実践学習を実施。

- ・ 参加者：21名

・ 参加者の意識変化：「自分の生活、家族の生活を考え直す」「今まで使い切らずに捨てていたものを最後まで使い切るようにする」など



## (1) 市内事業者との新たな繋がり

市民との繋ぎや実践促進等実施する体制ができた

キエーロコンポスト設置、削減した生ごみ測量協力、ゼロウェイスト認証エリアの検討開始、自然と健康を大切にした新たな居場所作りの検討開始



## (1) 市民との新たな繋がり

対話や勉強会の場づくり市民の実践の一步をサポート。市民環境会議の参加にも繋げる。

- ・ ローカルマニフェスト対話会 4回：延66名

- ・ コンポスト勉強会 1回：6名

- ・ ワークショップ 1回：12名

- ・ 市民環境会議 1回：30名

- ・ エコ情報共有LINEチャット参加者：62名

・ 参加者の意識変化：雲南市に暮らす自分たちがなにができるか、すぐ実践できるアクションはなにかを模索し3名が実践、サポーター25名。



# 取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

## 【困ったこと・難しかったこと】

- ・既存の取組とプラットフォーム構築との関わり・繋がりをどのように融合させると良いかの仮説
- ・参画したくなるわくわくする仕掛けづくり
- ・各関係者との役割、期待値等のずれ

## 【新たに見えてきた課題】

- ・環境分野に関して取り掛かりにくいと感じる事業者への伝え方（地域循環共生圏は理解できるが具体的なイメージが難しい）
- ・今後の役割分担（弊財団、行政、事業者等）
- ・新しく繋がった方々とのビジョン共有や今後実施していきたいことの意見交換等、実施に向けてのコミュニケーションの場が少ない



# 今後の展望

## 【プラットフォーム構築に向けた取組】

- 市内取組団体の支援（継続）
- 情報集約・情報交換のコミュニティづくり（継続）
- 地域自主組織と連携した環境教育、コンポストワークショップ（継続）
- 市民環境会議（継続）
- 市内事業者への働きかけ



## 【事業化に向けた取組】

- 農や食の拠点・居場所づくり  
自然を大切にしたい買い物ができる、商品を選ぶことができる場所（地元の野菜や量り売り等）、イベントや勉強会の開催で学びと繋がりづくり等
- 森林活用の人材育成  
新しい視点での森林活用の担い手育成、森林に関わる人・入る人を増やす
- ゼロウェイストエリアとエリア内での協働取組  
店舗等にゼロウェイスト認証を導入、可視化し消費者の選択肢を増やす、エリア内共通で使用できる容器の導入などを検討・実施等

